

企業を支える優れた人材

有機エレクトロニクスの世界的な研究拠点を擁する山形大学や、全国初の「公益学」を専門とする東北公益文科大学、東北芸術工科大学、県立保健医療大学などの4年制大学をはじめ、県立産業技術短期大学校など、多様な教育機関がものづくり企業を支える優れた人材を輩出しています。

令和5年4月には、東北初の専門職大学、電動モビリティシステム専門職大学が開学しました。

■大学・短大・高専等（大学院を含む）

(人)

学校名（所在地）	学部・学科名	最終学年	大学院	学生総数*
山形大学（山形市）	人文学部・人文社会科学部	374	54	1,289
	地域教育文化学部	190	40	726
	理学部	272	140	900
	医学部	143	190	953
東北芸術工科大学（山形市）	芸術学部	287	42	2,405
	デザイン工学部	309		
県立保健医療大学（山形市）	保健医療学部	97	36	414
県立産業技術短期大学校（山形市）	デジタルエンジニアリング・メカトロニクス・知能電子システム・情報システム・建築環境システム・土木エンジニアリング・産業技術専攻	105		213
東北文教大学（山形市）	人間科学部	106		433
東北文教大学短期大学部（山形市）	総合文化学科・子ども学科・現代福祉学科	125		235
羽陽学園短期大学（天童市）	幼児教育科	79		183
山形大学（米沢市）	工学部（高分子・有機材料工学、化学・バイオ工学、情報・エレクトロニクス、機械システム工学、建築・デザイン、システム創成工学）	783	766	2,770
県立米沢女子短期大学（米沢市）	国語国文学科・英語英文学科・日本史学科・社会情報学科	255		516
県立米沢栄養大学（米沢市）	健康栄養学部	44	3	176
山形大学（鶴岡市）	農学部	181	96	684
東北公益文科大学（酒田市・鶴岡市）	公益学部	259	10	978
県立産業技術短期大学校庄内校（酒田市）	生産エンジニアリング・情報通信システム・IT会計ビジネス	39		80
鶴岡工業高等専門学校（鶴岡市）	創造工学科	本 152		837
	生産システム工学専攻	専 38		
電動モビリティシステム専門職大学	電気自動車システム工学科			3
合 計		3,838	1,377	13,795

*学生総数には大学院生を含まない

■高等学校（工業・情報系）

(人)

学校名（所在地）	学科名	最終学年
県立山形工業（山形市）	機械、電子機械、電気電子、情報技術、建築、土木・化学	238
私立山形学院（山形市）	情報	33
私立山形明正（山形市）	自動車工学、情報機械、自動車工学専攻科	99
県立上山明新館（上山市）	情報経営	40
私立創学館（天童市）	やまがた創造工学	209
県立寒河江工業（寒河江市）	機械、電子機械、情報技術	102
県立村山産業（村山市）	機械、電子情報	51
県立新庄神室産業（新庄市）	機械電気、環境デザイン	68
県立米沢工業（米沢市）	機械、生産デザイン、電気情報、環境工学、建築、生産情報専攻科	180
県立米沢商業（米沢市）	情報ビジネス	25
県立長井工業（長井市）	機械システム、電子システム、福祉生産システム	61
県立鶴岡工業（鶴岡市）	機械、電気電子、情報通信、建築、環境化学	186
私立羽黒（鶴岡市）	機械システム、総合情報、自動車システム	65
県立酒田光陵（酒田市）	機械制御、電気電子、環境技術、情報	146
合 計		1,503

■職業能力開発校

(人)

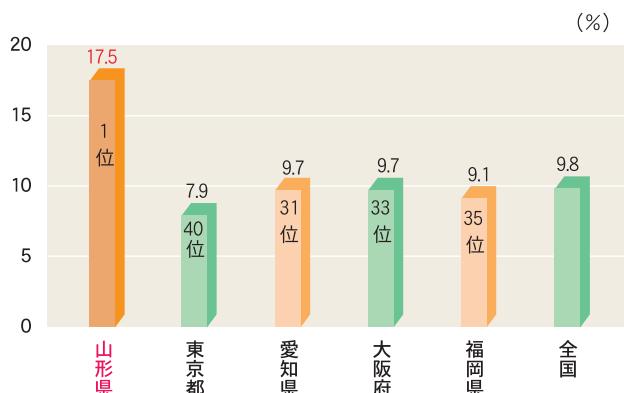
学校名（所在地）	学科名	最終学年
山形職業能力開発専門校（山形市）	自動車・建設技術	37
庄内職業能力開発センター（酒田市）	金属技術	14
合 計		51

*令和4年度「山形県学校名鑑」等、県雇用・産業人材育成課、山形大学

厚みのある人材育成

公立高校全日制募集定員に対する工業科構成比

全国第1位 17.5%



資料：他県調べ（平成23年度）

人口10万人当たりの技能検定合格者数

全国第2位 122.2人

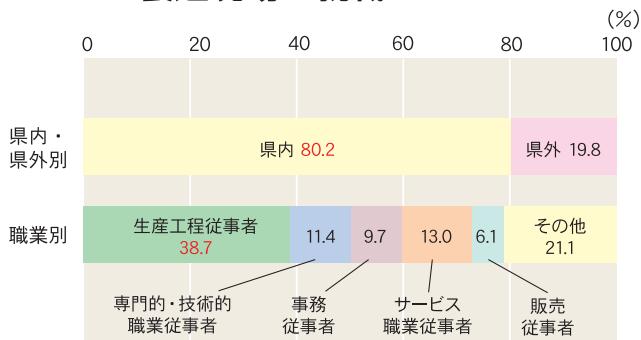


資料：厚生労働省「技能検定実施状況（令和3年度）」より山形県作成

雇用環境データ

高校卒業者の就職状況（令和4年3月）

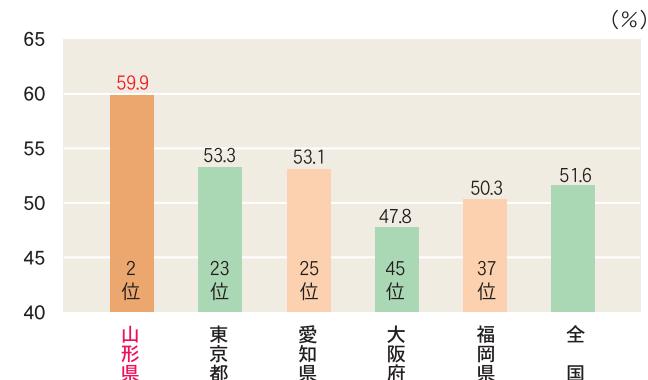
県内就職 80.2%
製造現場の就職 38.7%



資料：「学校基本調査」

共働き世帯率（令和2年）

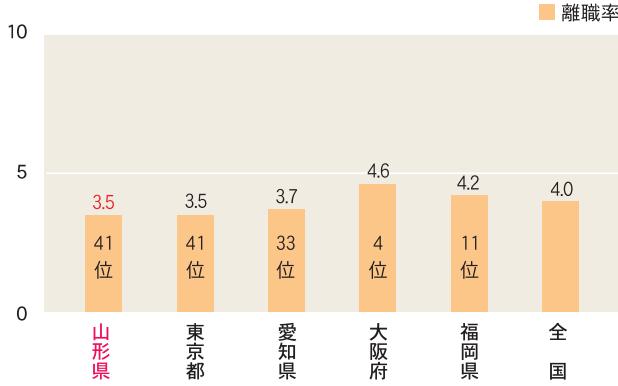
全国第2位 59.9%



資料：総務省統計局「国勢調査」

離職率（平成29年）

全国第4位の低さ 3.5%



資料：総務省統計局「社会生活統計指標」



ものづくり産業の人材育成

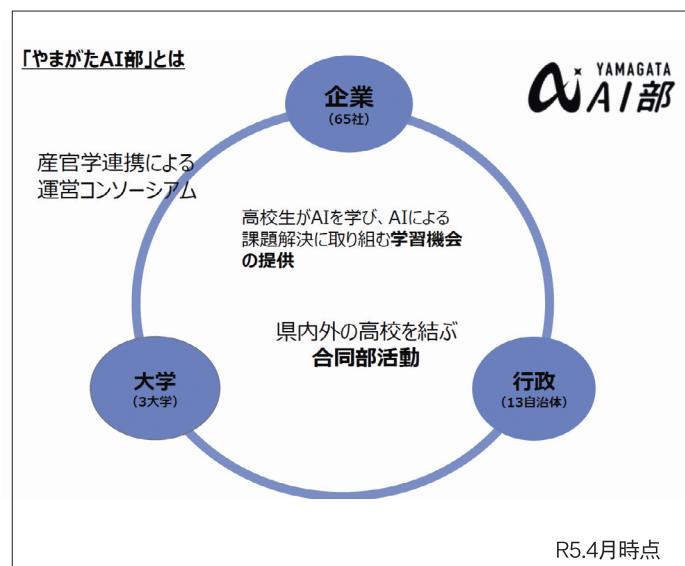
① ものづくりの次世代を担う人材育成

山形県では、地域の高校と産業界、関係行政機関が連携し、ものづくり産業の次世代を担う実践的な技術・技能を備えた人材の育成に取り組んでいます。

やまがたAI部

山形県内の企業・教育機関・自治体が連携して取り組む、AIプログラミング教育を通じた『デジタル人材育成プロジェクト』です。県内の高校生を対象に「部活動」という形式で取り組みをスタートし、デジタル人材の育成を通じて山形県の一人当たりのGDPの向上を目指します。

これを運営するコンソーシアムは、2020年8月に活動を開始し、本年度は県内26校の高校生に各学校の部活動としてAIに関する先進技術やデータサイエンスを学ぶ機会を提供しています。



やまがたAI部の取り組み① 県内ものづくり企業の視察・実習

やまがたAI部の高校生が県内ものづくり企業の視察を通して、企業における具体的なAI活用方法を高校生が考える機会を設けています。昨年度は庄内・最上・村山・置賜4ブロック各1社に受け入れを依頼し、高校生と各企業の社員とで構成されるグループでワークショップを行いました。参加した高校生からは「親、学校の先生以外の大人の人と話す機会はなかなか無いのでとても参考になった。」「AIの活用方法などを知ることができAIへの関心が高まった。」「実際に働いている人の考えを聞くことができとても有意義な時間だった。」などの感想が寄せられました。

高校生が県内ものづくり企業の魅力を知るきっかけにもなり、県内就職・定着の足がかりとしての役割も担っています。



やまがたAI部の取り組み② AI甲子園の開催

1年間のカリキュラムで学び得た知識・スキルを活用し、共通テーマと各校ごとの探究テーマの2種目の競技において各校で競い合います。過去最多の県内外24校が参加した「第3回やまがたAI甲子園」では、画像分類AIと探究テーマAIの2つの競技で熱戦を繰り広げました。

参加校増加にともない探究テーマAIにおいて予選を通過した上位12校が本選での発表権を獲得、全2種目の総合点が最も高い高校に賞が贈られます。多角的視点から採点を行うため、ものづくり企業のインフルエンサー、AI競技の世界チャンピオン、教育者等様々な業種の方が審査を行いました。

最優秀賞には山形県立東桜学館高等学校が選ばれ、トロフィーと賞状が贈されました。

(最優秀賞:第1回大会 山形県立山形西高等学校 第2回大会 山形県立酒田東高等学校)



② 企業ニーズに対応したさらなるスキルアップ

山形県では、優れた人材を豊富に育成しているのに加え、企業在職技術者等を対象とした様々な人材育成事業を実施することにより、技術力の更なるスキルアップに努めています。

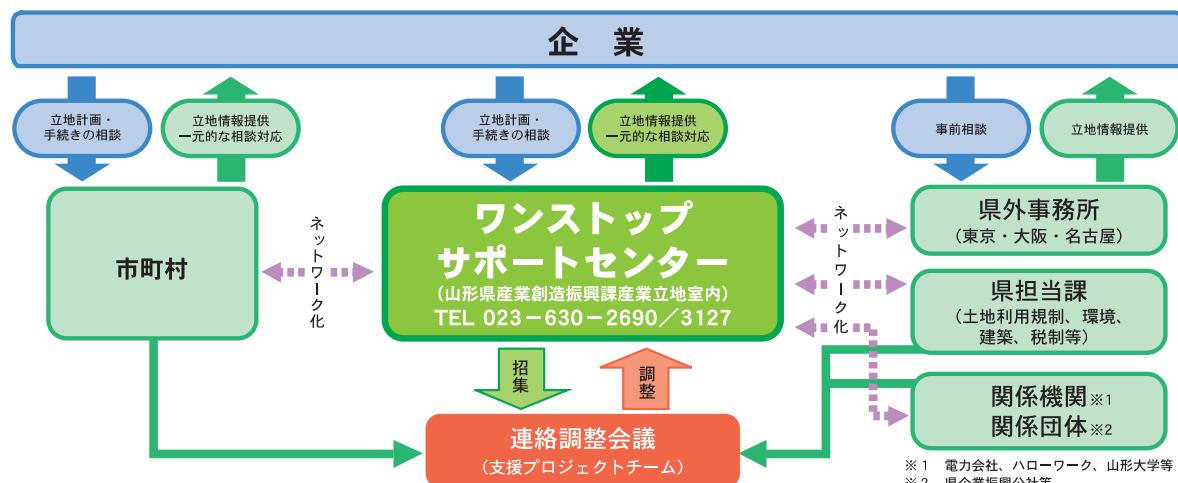
高度なものづくり人材の育成

成長分野参入促進	電子情報	設計技術	基盤技術
成長分野参入人材育成研修 <ul style="list-style-type: none"> ①在庫管理 ②生産改善 ③生産管理 ④TWI ⑤現場リーダースキルアップ (一般対象・女性対象) ⑥ものづくり人材(初級) ⑦発想力・思考力強化 	公開講座 <ul style="list-style-type: none"> ①IoTセミナー ②情報通信技術セミナー 	公開講座 <ul style="list-style-type: none"> ①シーケンス制御入門 ②3次元CAD入門 	製造業技術者研修 <ul style="list-style-type: none"> ①食品の安全管理技術 ②切削加工・研削加工技術 ③金属材料学 ④ノイズ対策の基礎・技術 ⑤プラスチック射出成形技術 ⑥異物解析技術入門 ⑦品質管理 等

トピックス

ワンストップサポートセンター

企業からの企業立地に係る各種相談に、一元的かつ総合的な対応を行うために、県関係課並びに市町村、関係機関・団体をネットワーク化した「ワンストップサポートセンター」を設置しております。



トピックス 山形の偉人

上杉鷹山 【うえすぎ・ようざん】 英 主



1751年生まれ
米沢藩9代藩主

質実剛健な施策により、貧弱した藩政を立て直した。とくに産業振興策では、養蚕業や米沢織を奨励し、現在の米沢の基礎を築きあげる。

いまも「おたまや」と呼ばれ土地の人々から崇められているのが、国指定史跡の「上杉家御廟所」である。名君として慕われた鷹山公もここに眠る。

齊藤茂吉 【さいとう・もきち】 歌聖



1882年生まれ
アラヤギ派代表歌人

上山市金瓶に生まれた齊藤茂吉は、14歳の夏に上京し、医業の傍ら50歳の生涯を閉じるまで歌を詠み続けた。

『赤光』『あらたま』など17歌集18,000首に及ぶ作品と、生涯にわたって発表した。その背景には、母なる最上川、蔵王など故郷山形の自然が常に佇んでいた。

浜田広介 【はまだ・ひろすけ】 童話作家

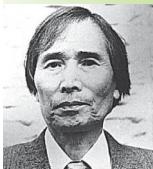


1893年生まれ
童話作家

早稲田大学卒業後、小川未明や坪田譲治とともに、日本児童文学の先駆者となる。1953年芸能選奨文部大臣賞受賞。後には、日本児童文芸学会会長に就任。

『椋鳥の夢』『竜の目の涙』『泣いた赤鬼』等、数多の作品を生みだし、ひろすけ童話として人々に愛された。

藤沢周平 【ふじさわ・しゅうへい】 国民作家



1927年生まれ
作家

1949年、山形師範学校を卒業後、旧湯田川中学校に赴任。結核のために鶴岡や東京で療養生活を送った後、食品業界新聞の記者として活躍した。『暗殺の年輪』で第63回直木賞受賞。平成元年、菊池寛賞受賞。平成7年には紫綬褒賞受賞。平成9年、山形県県民栄誉賞受賞。

我妻栄 【わがつま・さかえ】 民法の神様



1897年生まれ
民法学者

東京帝国大学法学部独法科卒業後、同大学法学部長、名譽教授に就任する。戦後は日本学术会議の副会長、法務省特別顧問を務める。

特に日本初の民法体系書『民法講義』は民法のバイブル的存在。『近代法における債権の優越的地位』等の著書がある。

直江兼続 【なおえ・かねつぐ】 智将



(米沢市 上杉博物館)
1560年生まれ
上杉家重臣

初代米沢藩主、上杉景勝の家臣で、智勇兼備の武将として名高い。幼少時に上杉謙信の薫陶を受け、信義の精神を貴いた。豊臣秀吉も高く評価していたといわれ、米沢6万石を与えられている。治水事業、殖産興業などに尽力し、その政策は、後の上杉鷹山に受け継がれた。